

2021年度 長崎視察

(雲仙・長崎市内)

ガバナンス1期生
高橋 幸子

2022共通テスト

世界史 B

(解答番号 ~)

第1問 世界史上の学者や知識人について述べた次の文章A～Cを読み、後の問い(問1～9)に答えよ。(配点 27)

A シーボルトは、1796年にドイツで生まれた。大学で医学に加え、^①解剖学・植物学・薬学などを学んだ彼は、1822年にオランダ領東インド陸軍外科軍医少佐に任じられた。翌年には、東南アジアにおけるオランダの拠点だった に到着し、そこで出島商館の医官として日本での勤務を命じられた。シーボルトが医官として勤務しながら、日本について博物学的研究を進めたことはよく知られている。

1829年に日本を離れたシーボルトは、オランダやドイツを拠点に膨大な著述を残した。そのうち、『日本』は1832年から1851年にかけて20分冊が刊行された大著で、日本とその近隣国に対する総合的研究の成果である。

ちなみに・・・

試験中に不正が行われ、話題になりました。

シーボルトについて試験問題が出されました。

視察に参加された皆さんなら解けます(^_^)v

時代の先端をいった視察ですね。

テーマ
原爆の放射能

原爆の被害

- 放射線による被害
- 後障害について
- 高熱火災による被害
- 爆風による被害
- 熱線による被害
- 建物の被害

原爆放射線

- 原爆の放出エネルギー
 - 50% 爆風 爆心地から2キロメートル地点まで建物を全焼倒壊させる被害
 - 35% 熱線 爆心地から3キロメートル地点まで火傷や家屋の自然発火が見られた。
 - 15% 放射線 爆風で飛ばされるものでない。爆風や熱線が届いたからと言って、放射線が届いたわけではない。

放射線の被害

- 原爆は通常の爆弾では発生しない大量の放射線が放出する。
- 放射線は、人体の奥深くに入り込み、細胞を破壊し、血液の正常な機能を奪い、血液を作る骨髄の造血機能を破壊する。また、呼吸器や内臓などに障害を引き起こす。

放射線の被害

- 爆心地からの距離やさえぎる物の有無によって、傷害の程度が大きく異なる。
- 爆心地から約1キロメートル以内にいた人は爆発後1分以内に放射された初期放射線によって、致命的な影響を受け、ほとんど数日のうちに死亡した。(爆心地1キロメートル以内は爆風・熱線の影響があり生存者自身が少ない)

放射線の被害

- 外傷が無く、無傷と思われた人たちが、被爆後月日が経過して発病し、死亡した人たちも多かった。
- 原爆は爆発後、長時間にわたって残留放射線を地上に残した。そのため、爆心地周辺を歩いたり、救護活動をした人たちも直接被ばくした人たちと同様に発病・死亡する人もいた。

被爆の影響

- 被爆後から短期間に現れた熱線、風爆や放射線による急性障害：吐気、食欲不振、下痢、頭痛、不眠、脱毛、倦怠感、吐血、血尿、血便、出血斑、発熱、口内炎、白血球・赤血球の減少、月経異常など様々な症状が現れる。
- 現実には被爆に加え、食事情の悪化、外傷の化膿、病原菌への抵抗力の減退などによる死亡者も多くいた。

被爆の影響

- 火傷が治ったあとのケロイド症状
- 体内被曝児は出生後の死亡率が高い
生きていても小頭症などの症状
- 被爆後5、6年経過すると白血病患者が増加、
被爆後10年経過するころから甲状腺がん、
乳がん、肺がんなどの悪性腫瘍の発生率も
高くなった。

現在は大丈夫？

- 現在の広島や長崎にある放射線は、地球上のどこにでもあるごく少ない放射線(自然放射線)と変わりなく、人の体にも影響を与えることはない。

日常で被爆

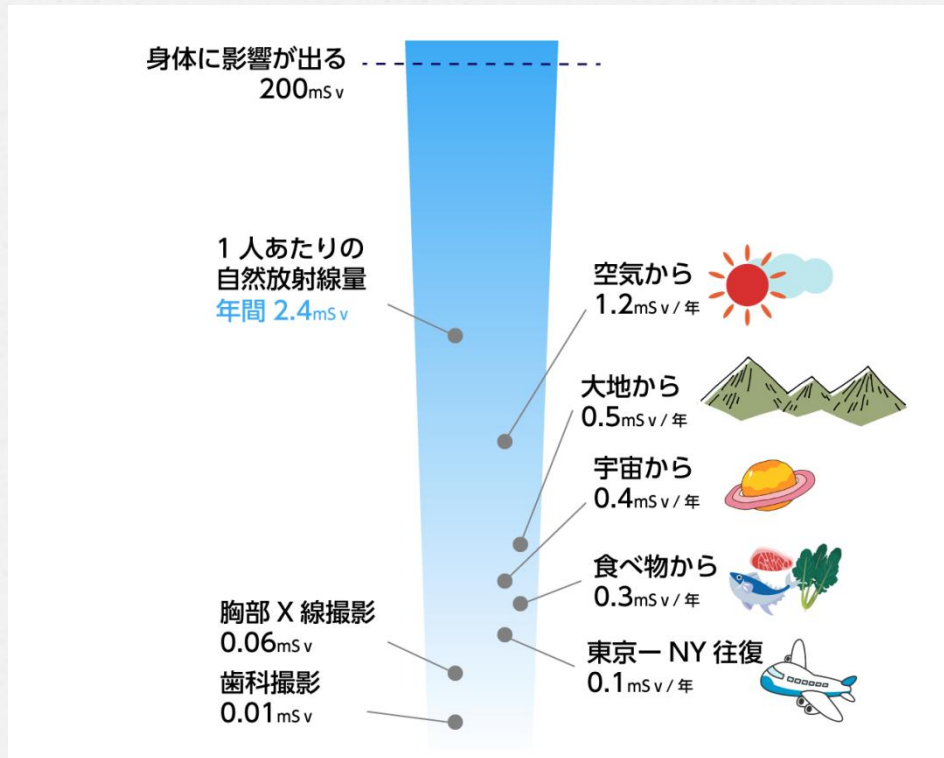
- 原爆の放射能被爆は大変恐ろしい
- 日常でも被爆している
- 放射能について...

被爆について

- X線を受けた部位によって身体への影響は異なりますが、身体に影響が出ると言われている線量は「200mSv以上の被ばく」と考えられています。

例えば、健康診断などで撮影する機会が多い胸部X線(放射線)を1回撮影すると0.06mSvの線量を受けることとなります。

日常生活の中で受ける被ばく



生活の中で 恐れることはないが

- 原爆による放射能の量は人体の生死に、また後遺症や遺伝にも関係してくる。
- 被爆手帳所持者は最高37万2264人だったが、2021年3月末12万7755人と減ってきている。今後10年間は年間1万人弱のペースで減り続けていくと予想されている。
- 原爆の被害者減ってきてても、原爆の恐ろしさは後世に伝えていかななくてはならない。

ありがとうございました。